

米国農務省穀物等需給報告(2024年5月10日発表のポイント)

令和6年5月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、5月10日(現地時間)、2024/25年度の1回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。
-2024/25年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:28億3,841万トン(対前年度比 1.1%増)
- ② 消費量:28億4,153万トン(対前年度比 0.9%増)
- ③ 期末在庫量:7億6,917万トン(対前年度比 0.4%減)
期末在庫率:27.1%(対前年度差 0.4ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 :世界の生産量は、ロシアや英国で単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、インドや中国で単収・収穫面積ともに増加することや、豪州では単収が増加すること等から、史上最高となる見通し。世界の消費量は、世界的に食品・種子・工業用需要が増加すること等から、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:7億9,819万トン(対前年度比 1.3%増)・・・インド、中国、豪州、カザフスタン、カナダ等で増加、ロシア、英国、EU、ウクライナ等で減少
- 2 消費量:8億237万トン(対前年度比 0.3%増)・・・中国等で減少
- 3 期末在庫量:2億5,361万トン(対前年度比 1.6%減)・・・米国等で増加、ロシア、EU等で減少
期末在庫率:31.6%(対前年度差 0.6ポイント減)

とうもろこし :世界の生産量は、ブラジル、EU、南アフリカで単収・収穫面積ともに前年度より増加するものの、米国で収穫面積の減少、ウクライナでは単収・収穫面積ともに減少すること等から、前年度より減少する見通し。世界の消費量は、中国で飼料用需要が増加すること等から、前年度より増加する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:12億1,993万トン(対前年度比 0.7%減)・・・ブラジル、EU、中国、南アフリカ等で増加、米国、ウクライナ、アルゼンチン等で減少
- 2 消費量:12億2,075万トン(対前年度比 0.4%増)・・・中国等で増加
- 3 期末在庫量:3億1,227万トン(対前年度比 0.3%減)・・・米国等で増加
期末在庫率:25.6%(対前年度差 0.2ポイント減)

コメ(精米) :世界の生産量は、インド、中国、バングラデシュ、インドネシア等で単収・収穫面積ともに前年度より増加すること等から、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等で減少するものの、インド等で増加することから、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:5億2,761万トン(対前年度比 2.0%増)・・・インド等で増加
- 2 消費量:5億2,640万トン(対前年度比 0.9%増)・・・インド等で増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量:1億7,612万トン(対前年度比 0.7%増)
期末在庫率:33.5%(対前年度差 0.1ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、ブラジル、米国で単収・収穫面積ともに増加すること等から、史上最高となる見通し。なお、ブラジルではリオグランデ・ド・スルの洪水により2023/24年度の実績が生産量が下方修正された。世界の消費量は、中国、アルゼンチン、米国で搾油用需要が増加すること等から前年度より増加し、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:4億2,226万トン(対前年度比 6.4%増)・・・ブラジル、米国等で増加
- 2 消費量:4億174万トン(対前年度比 4.7%増)・・・中国、アルゼンチン、米国等で増加
- 3 期末在庫量:1億2,850万トン(対前年度比 15.0%増)・・・ブラジル、アルゼンチン、米国、中国等で増加
期末在庫率:32.0%(対前年度差 2.8ポイント増)

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2024年5月10日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		2,754.69	2,807.19	2,838.41	1.1%	-	2,299.6
消費量		2,771.22	2,816.56	2,841.53	0.9%	-	2,287.4
期末在庫量		781.67	772.29	769.17	▲ 0.4%	-	480.9
期末在庫率		28.2%	27.4%	27.1%	▲ 0.4	-	21.0%
小麦							
生産量		789.19	787.72	798.19	1.3%	-	660.8
消費量		791.94	800.34	802.37	0.3%	-	680.3
期末在庫量		270.42	257.80	253.61	▲ 1.6%	-	180.6
期末在庫率		34.1%	32.2%	31.6%	▲ 0.6	-	26.5%
粗粒穀物							
生産量		1,449.72	1,502.13	1,512.62	0.7%	-	1,162.7
消費量		1,459.01	1,494.60	1,512.76	1.2%	-	1,142.2
期末在庫量		332.05	339.58	339.45	▲ 0.0%	-	176.4
期末在庫率		22.8%	22.7%	22.4%	▲ 0.3	-	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,157.88	1,228.09	1,219.93	▲ 0.7%	-	903.3
消費量		1,170.56	1,215.92	1,220.75	0.4%	-	880.8
期末在庫量		300.91	313.08	312.27	▲ 0.3%	-	145.8
期末在庫率		25.7%	25.7%	25.6%	▲ 0.2	-	16.6%
コメ(精米)							
生産量		515.78	517.34	527.61	2.0%	-	476.1
消費量		520.26	521.63	526.40	0.9%	-	464.9
期末在庫量		179.20	174.91	176.12	0.7%	-	123.9
期末在庫率		34.4%	33.5%	33.5%	▲ 0.1	-	26.7%

【大豆】

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)		前月差
生産量		378.20	396.95	422.26	6.4%	-	269.0
消費量		366.04	383.53	401.74	4.7%	-	265.4
期末在庫量		100.53	111.78	128.50	15.0%	-	58.3
期末在庫率		27.5%	29.1%	32.0%	2.8	-	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 10, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2024年5月10日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	
全体						
生産量		406.43	459.13	449.32	▲ 2.1%	353.0
消費量		350.03	362.85	365.07	0.6%	317.1
輸出量		67.73	83.54	86.85	4.0%	51.6
期末在庫量		53.60	74.09	78.69	6.2%	44.2
期末在庫率		12.8%	16.6%	17.4%	0.8	12.0%
小麦						
生産量		44.90	49.31	50.56	2.5%	61.3
消費量		30.42	30.32	30.59	0.9%	37.8
輸出量		20.65	19.60	21.09	7.6%	27.5
期末在庫量		15.50	18.71	20.85	11.4%	19.5
期末在庫率		30.4%	37.5%	40.3%	2.9	29.9%
粗粒穀物						
生産量		356.45	402.89	391.77	▲ 2.8%	285.3
消費量		315.00	327.54	329.40	0.6%	275.5
輸出量		45.04	60.96	62.59	2.7%	20.7
期末在庫量		37.14	54.08	56.39	4.3%	23.5
期末在庫率		10.3%	13.9%	14.4%	0.5	7.9%
とうもろこし						
生産量		346.74	389.69	377.46	▲ 3.1%	273.2
消費量		305.95	318.91	320.18	0.4%	263.0
輸出量		42.20	54.61	55.88	2.3%	18.5
期末在庫量		34.55	51.36	53.39	4.0%	20.9
期末在庫率		9.9%	13.8%	14.2%	0.4	7.4%
コメ(精米)						
生産量		5.08	6.93	6.99	0.9%	6.3
消費量		4.61	4.99	5.08	1.8%	3.8
輸出量		2.04	2.99	3.18	6.4%	3.4
期末在庫量		0.96	1.30	1.45	11.5%	1.2
期末在庫率		14.4%	16.3%	17.6%	1.3	16.1%

【大豆】

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 前月差	
生産量		116.22	113.34	121.11	6.9%	82.8
消費量		62.96	65.69	68.99	5.0%	48.6
輸出量		54.21	46.27	49.67	7.3%	36.1
期末在庫量		7.19	9.26	12.11	30.8%	3.8
期末在庫率		6.1%	8.3%	10.2%	1.9	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 10, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向 (2024年)

● 小麦 : 6.06 ドル/bu (前年同時期の価格 : 6.47 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年5月第1週末のセツルメント価格】

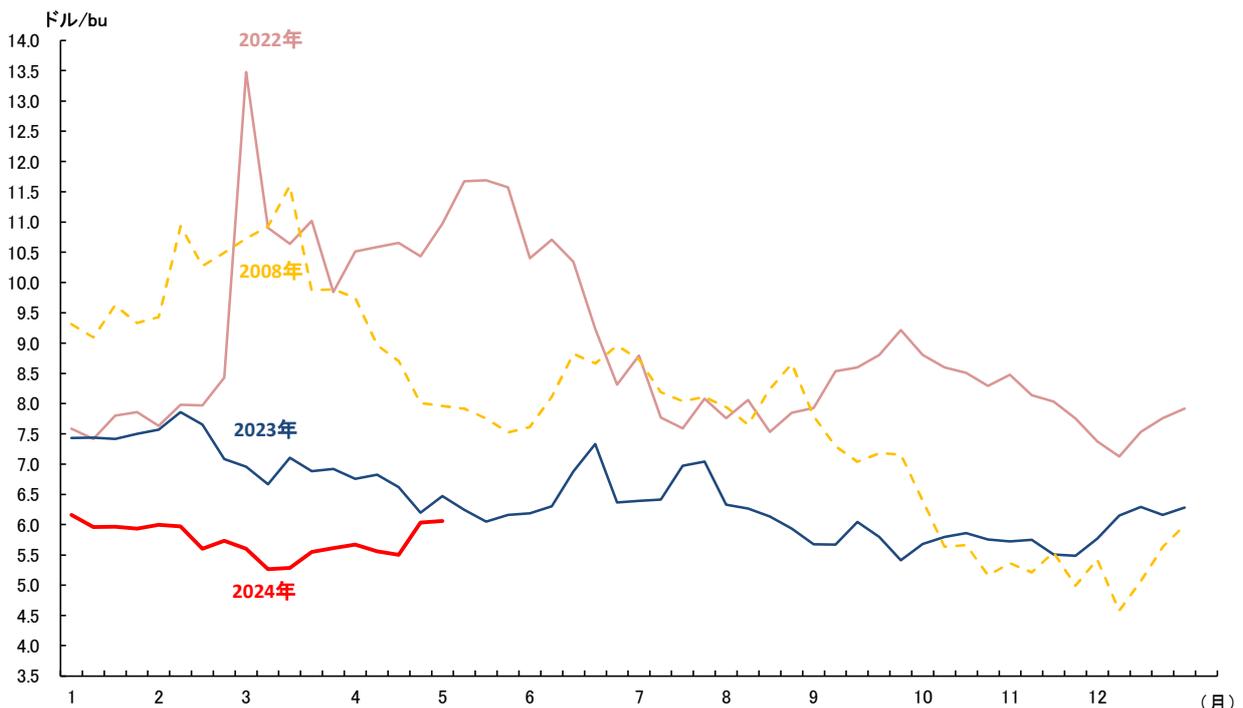
(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日))

1月に入り、上旬までは中国からの需要期待も、米国中西部の冬小麦地帯での降雨や降雪を受け、6ドル/bu 台前後で上下し、米国農務省需給報告で米国産の在庫量が上方修正されたことや低調な輸出需要から5ドル/bu に値を下げた。その後安値による買戻しから6ドル/bu 台前半に値をあげたものの、低調な輸出需要等から値を下げ、1月末現在、5ドル/bu 台後半で推移。

2月に入り、ロシア産との競合やドル高も、安値による買戻しから5ドル/bu 台後半から6ドル/bu 前後で推移。2月半ばには、米国アウトLOOKフォーラムで2024/25年度の米国産期末在庫量が予想を上回ったこと等を受け一時5ドル/bu 台半ばに値を下げたものの、安値感から買い戻され、2月末現在、5ドル/bu 台後半で推移。

3月に入り、黒海地域からの潤沢な供給と米国産に対する低調な需要から5ドル/bu 台前半まで値を下げた。その後、ロシアによるウクライナの港への攻撃で黒海の情勢が緊迫化したこと等により値を上げ、3月末現在、5ドル/bu 台半ばで推移。

4月に入り、黒海地域の緊迫化による供給不安等から一時値を上げたものの、米国農務省需給報告で米国の期末在庫量が上方修正されたことや主要生産地の降雨予想等から5ドル/bu 台半ばまで値を下げた。下旬以降、中東での緊張の高まりや米国及びロシアの乾燥懸念等により値を上げ、4月末現在、5ドル/bu 台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.47ドル/bu（前年同時期の価格：6.53ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年5月第1週末のセツルメント価格】

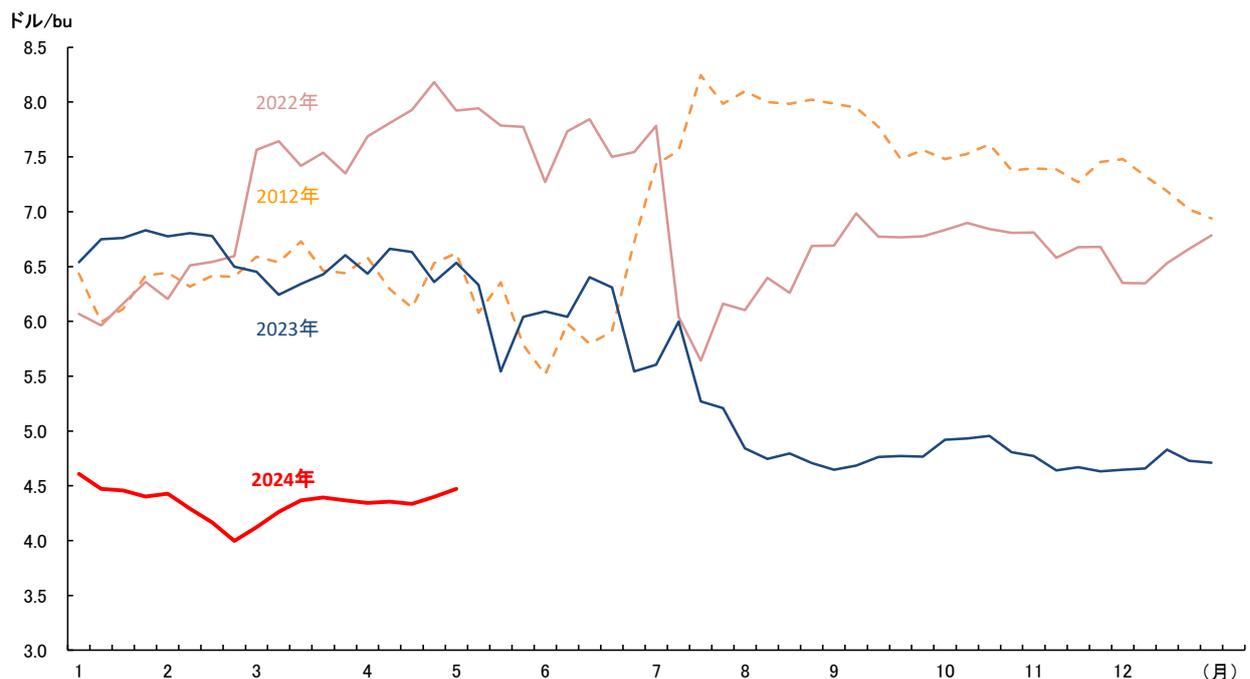
（史上最高値：8.31ドル/bu(2012年8月21日)）

1月に入り、南米の降雨予想や米国の低調な週間輸出成約高から4ドル/bu台半ばまで下落。その後、米国農務省需給報告に向けたポジション調整等や、1月の米国農務省需給報告において米国産の生産量の上方修正やアルゼンチンの増産見通しから4ドル/bu台半ばで上下し、1月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。

2月に入り、米国農務省需給報告及び米国アウトックフォーラムで米国産期末在庫量が市場予想を上回ったこと、南米の生産見通しの改善から4ドル/bu割れまで値を下げたものの、米国産の週間輸出検証高が予想を上回ったことや安値感からの買戻しにより値を上げ、2月末現在、4ドル/bu台前半で推移。

3月に入り、米国産の堅調な輸出やアルゼンチンの降雨過多等による作柄懸念を受け4ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、一時4ドル/bu台前半に値を下げたものの、米国農務省が発表した作付意向面積報告が市場の事前予想を下回ったため値を上げ、3月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。

4月に入り、米国中西部での生産に適した天候が今春の作付け拡大につながるの見通しから4ドル/bu台前半まで値を下げた。その後、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇等により値を上げ、4月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：613 ドル/トン（前年同時期の価格：518 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2024 年 4 月第 5 火曜日の FOB 価格】

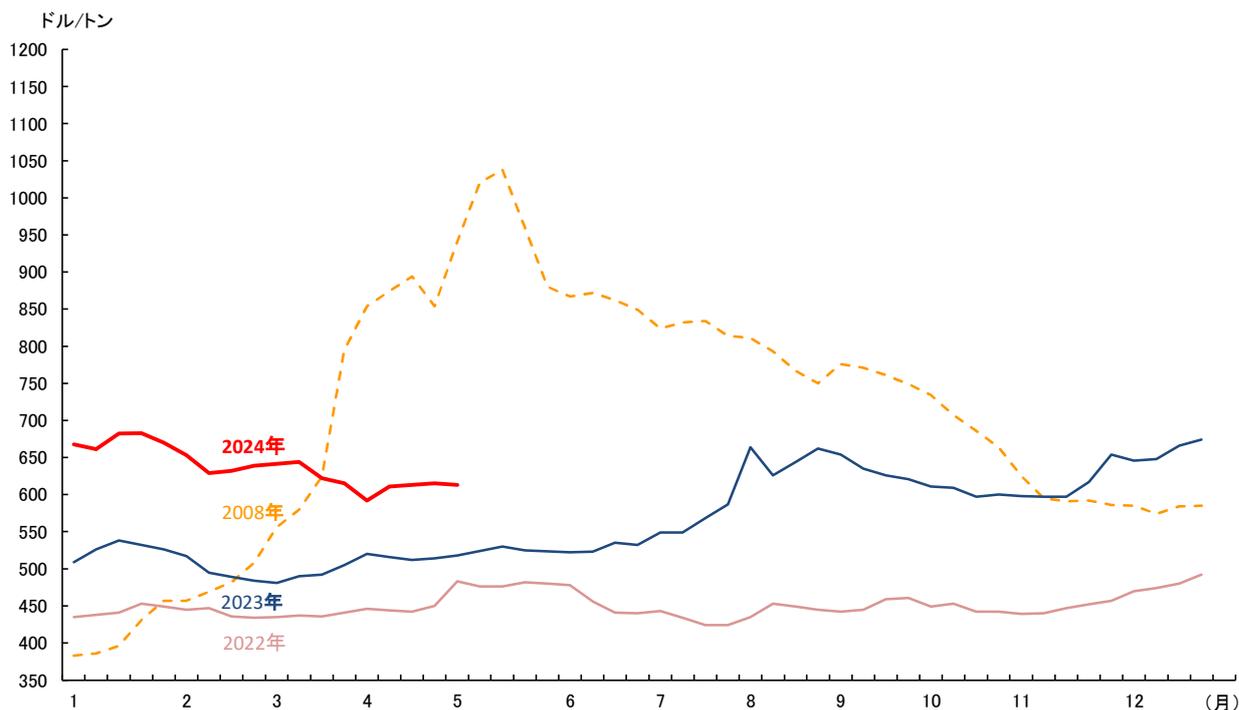
（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

1 月に入り、年始の休場等による低調な需要から一時 660 ドル/トン台前半まで値を下げたものの、インドネシアの追加輸入や旧正月（2 月上旬）、ラマダーン（断食月）（3 月 10 日－4 月 8 日）などを控えた ASEAN 諸国からの需要増加等から値を上げ、一時 680 ドル/トン台前半まで上昇。しかし、輸送コストの上昇による需要の軟化等から値を下げ、1 月下旬現在、670 ドル/トン台前後で推移。

2 月に入り、旧正月（2 月上旬）でアジアの市場が停滞したことや、2 月上旬のインドネシア政府の入札が成立しなかったことのほか、2 月末から 3 月初めの乾季米の入荷待ちによる需要の軟化等から一時的に 620 ドル/トン台に値を下げたものの、インドネシア政府が 4 月までに 30 万トンの輸入を行うと公表したことから値を上げ、2 月下旬現在、630 ドル/トン台後半で推移。

3 月に入り、乾季米の市場への流入が続く中、インドネシア政府の入札が 4 日に成立したこと（タイ及びパキスタンから約 30 万トン）や、3 月末にインドネシア政府が再び入札を行う可能性があるとの市場の予測等から値を上げ、一時 640 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、新穀（乾季米）の市場への流入継続等から値を下げ、3 月下旬現在、610 ドル/トン台半ばで推移。

4 月に入り、乾季米の市場への流入が続いていることから、一時 590 ドル/トン台前半まで値を下げたものの、インドネシア政府が 30 万トンの入札を公示し、そのうち 11 万トンをタイから 5 月末までに輸入すること等から値を上げ、4 月下旬現在、610 ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年と直近3年の価格推移。

● 大豆：12.02 ドル/bu（前年同時期の価格：14.69 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年5月第1週末のセトルメント価格】

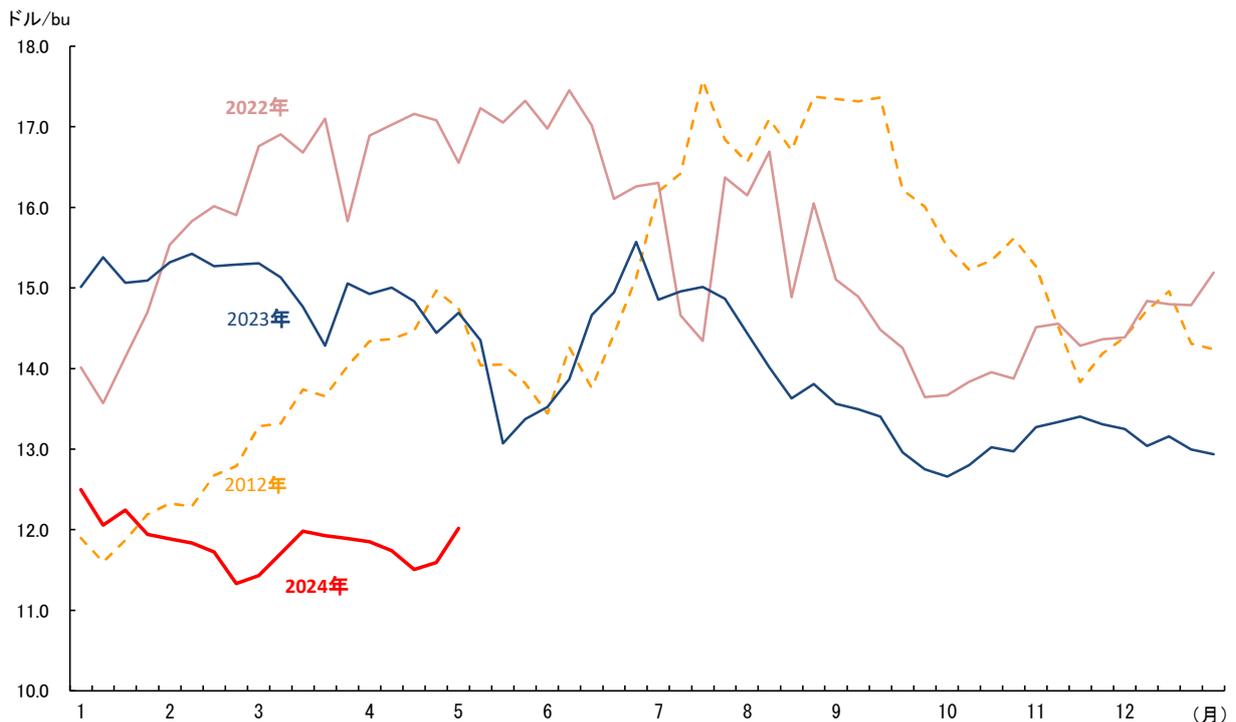
（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012年9月4日)）

1月に入り、ブラジルでの降雨等を受け12ドル/bu台前半までに値を下げた。その後、原油高に連動する形で12ドル/bu台半ばに値を上げたものの、1月の米国農務省需給報告で米国産の生産量が上方修正されたことや、アルゼンチンの増産見通し、ブラジルの降雨等から値を下げ、1月末現在、12ドル/bu台前半で推移。

2月に入り、米国の週間輸出成約高や南米の高温乾燥や降雨予報を受け、11ドル/bu台後半から12ドル/bu前後で推移。その後、米国アウトLOOKフォーラムで米国産の生産量、期末在庫量が市場予想を上回ったことや、南米産の収穫の進展及び生産見通しの改善から値を下げ、2月末現在、11ドル/bu台前半で推移。

3月に入り、米国産の堅調な輸出需要やブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から12ドル/bu台前半まで値を上げた。その後、米国農務省が発表した作付意向面積や四半期在庫が前年より増加したことから値を下げ、3月末現在、11ドル/bu台後半で推移。

4月に入り、南米産の供給増を受けた相対的な米国産の価格競争力の低下による米国の輸出需要の鈍化等から11ドル/bu台前半まで値を下げた。下旬以降、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇等により値を上げ、4月末現在、11ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セトルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
108.99	106.78	109.80	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	141.21
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
144.77	147.67	149.53	149.83	144.07	146.57	149.42	149.63	153.43		

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
45.01	52.79	65.79	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	42.73
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
49.49	52.48	51.30	52.75	56.27	51.39	50.39	54.74	53.56		

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

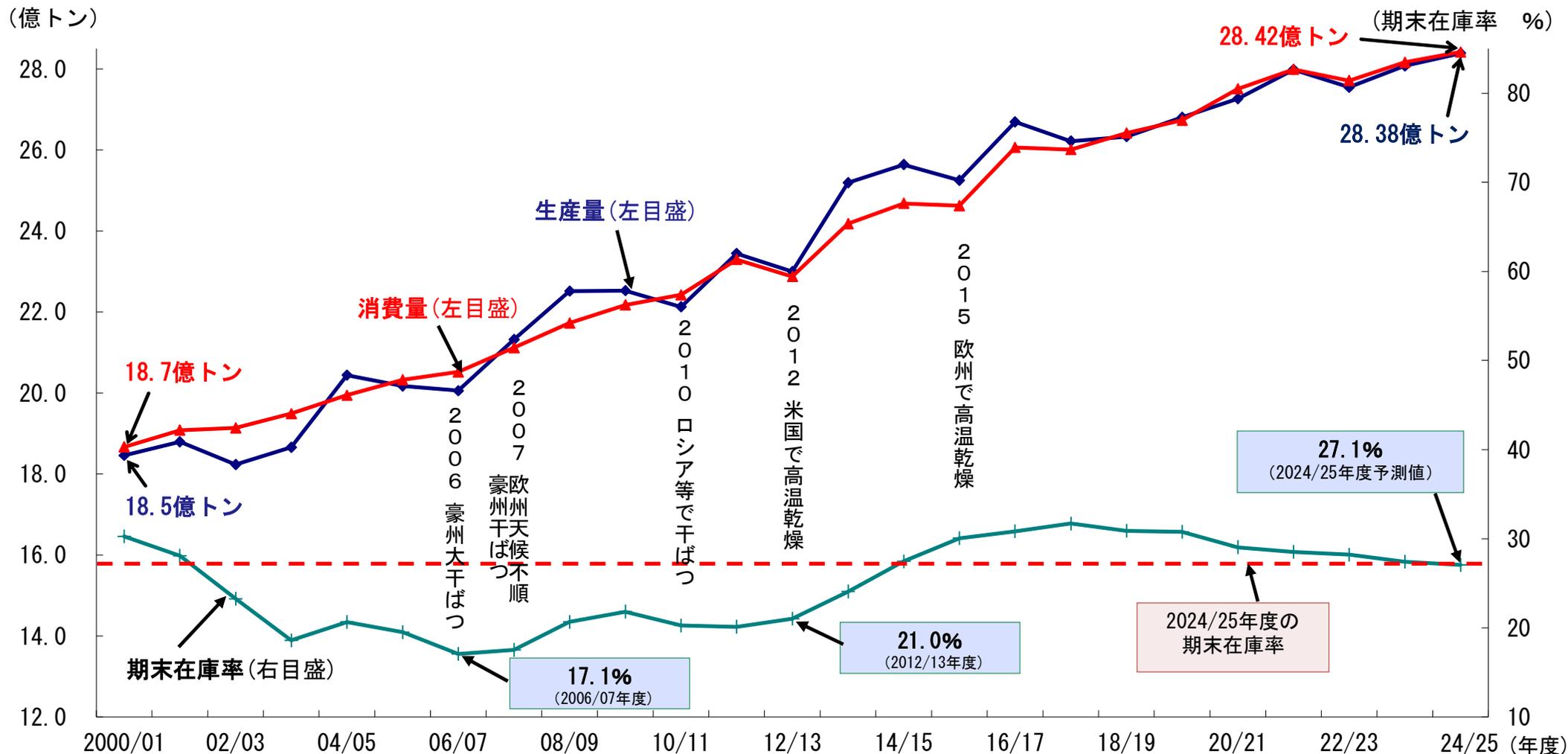
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
57.03	39.40	74.66	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.52	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.27	76.03
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
81.32	89.43	85.47	77.38	72.12	73.86	76.61	80.41	85.35		

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和6年4月, 124頁
但し、2024年4月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.1%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 2024)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。